

《どうでもいい話、その 491》

どうでもよくない皆様へ

こんにちは！

積水ハウスが、東京五反田の土地売買で地面師グループから55億円だまし取られました。この“地面師”ですが、なぜ「師」が付くのでしょうか。師という字は辞書を引くと「人の手本となる人・先生」とあります。地面師は犯罪者で手本になる人ではなく、これが師だったら樋田被告も“警察脱走師”“万引き師”になるのではないのでしょうか。地面師とか詐欺師は、地面犯、詐欺犯などに改めるべきです。まー、反面教師の「師」なら納得ですが・・・。

言語は、時代とともに変わっていきます。今は特に、セクハラ、パワハラ、巨人のハラなど、言葉を選んで話さなければなりません。例えば、昔よく使っていたことわざで「気チガイに刃物」「天才と狂人は紙一重」「メクラ蛇におじず」などは、現在では差別用語でタブーです。同じく「外面如菩薩、内面如夜叉」（女というものは、表面はやさしいが、心は悪い鬼のように男をいじめるものだ）などのことわざを女性がいる前で言おうものなら「セクハラだ！」と、こわ～い如夜叉からいじめられます。

岩波より